

サギタリウスチャレンジ チャレンジ部門

結果報告書

タイトル	産大グリーン化プロジェクト ～自然との調和を図る～
代表者	総合生命科学部 江村 晃太
企画概要	人間生活に密接にかかわる自然環境を保全し、新たに人間と自然との調和をもたらすため産大に屋上緑化、森林の保護を行い、豊かな人間生活を提供することを目的とする。体育館屋上にグリーンカーテンおよび畑の設置と本山散策路での近年問題視されているナラ枯れ被害対策を行う。
結果報告	<p>屋上緑化では 200 株以上のゴーヤ、フウセンカズラ、アサガオの苗を栽培した。栽培方法が悪かったのか、つるの伸びが悪く立派なカーテンにはならなかった。またグリーンカーテンの副産物としてゴーヤの実等が得られたが、食用としては十分なものではなかったため、アサガオ、フウセンカズラも含めて種を回収し神山祭で配付した。屋上の畑では、夏の炎天下の中、元からある土を撤去し新たな培養土を敷き詰めて畑とした。季節的に大根を栽培したが、予想以上の収穫量を得られた。実験的ではあったが、自然との調和とまではいかなかったが体育館屋上でも緑化はできるということを示すことができた。</p> <p>ナラ枯れ被害対策では本山散策路の散策路沿いを調査範囲とし、被害木の位置情報、被害状況を調査した。またナラ枯れ調査のノウハウを、左京区の吉田山でナラ枯れ被害対策を行っていた方にコンタクトを取ることで、その方との学習会やフィールドワークを通して学んだ。調査結果として、今年の被害木は 6 本、去年以前に被害を受けた木は 136 本と、去年以前に被害を受けた木が大多数を占めることとなり、本山散策路でのナラ枯れ被害のピークはすでに過ぎていたものと思われる。このナラ枯れ被害を写真やテキストの形で多くの人に知ってもらおうと神山祭で紹介した。ナラ枯れを知る人は決して多くはなく、身近で起こっている自然の変化を少しでも理解していただいたと思う。</p>
感想	<p>企画が主に作業をするということに焦点がいったため、その活動をどうするか、ということをもっと十分に行うことができずに終わってしまったという印象が強いです。いわゆる表向きの活動では生産性がなく、自己満足で終わってしまいます。企画段階で、メンバー内で意見を出し合っ、企画全体をもっと練る必要がありました。同じようなことですが、企画が終了してみると、提出していた予算編成とは異なる収支結果となりました。今回は支援金をすべて計画通りには使用しなかったのですが、それは最低限のことで企画が運営できたことでもあります。予想外の出費が発生したことには大きな原因がありました。企画を実行するに当たり、一番重要なのは企画実効の計画性だと今回のサギタリウスチャレンジから学びました。</p> <p>この先就職して、必ずこういった企画運営や企画の立案を行う場面に出会うと思います。ここで学んだ計画性の重要性を活かすことができるよう、このサギタリウスチャレンジで活動できたことを忘れず胸の片隅に置いておきたいです。</p> <p>この活動をする上で協力してくださった学生部の方々、総合生命科学部の先生の方々、迷</p>

	<p>惑をかけることもありましたが、無事企画を終了することができ、感謝しています。</p>
--	---